



やまゆり

学校だより

令和5年12月19日
70号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「生徒の良さを伸ばし、課題を改善するための連携」

「通信票の活用」の参考にして下さい

いよいよ2学期が終了し、冬休みを迎えようとしています。2学期のお子さんの成長をしっかりと確認し、自信と誇りを持たせ、3学期の更なる成長を実現したいと思います。そのために「通信票」を活用していただきたいと思ひます。

つきましては、「通信票」の見方や考え方について以下にご説明いたしますのでご活用下さい。

1 通信票の目的

通信票は、以下の2つが主な目的です。

- ① 学校での指導の過程と結果等の内容や、生活の様子を指導要録に準じた通信票で保護者にお伝えする。
- ② 更なる成長を願ひ、お子さんの良さと通信票の内容の成果を確認し、また課題点を改善、克服するための資料として活用する。

2 各項目の見方について

「今できていることを認める」ことが重要です。お子さんが誕生したときのことを思い出してください。いくつになっても子供は宝です。お子さんの良さを認め、その良さを伸ばすことを中心とした言葉がけをお願いします。

また、「どうすれば改善できるのか」を助言・指導するのが保護者や教職員の重要な役割です。ご理解とご協力をお願い致します。

① 出席状況

心身の健康がお子さんの成長の基盤です。2学期も、各種感染症予防対策があり、悩みや不安、ストレスが高い状態でした。この環境の中でも、心身の健康を保ち欠席が少ないのは社会で自立して働くうえでとても重要な能力です。

逆に、欠席・早退・遅刻等は、お子さんからの困っているというSOSのサインでもあります。他の生徒との比較ではなく、本人の意志や困っていること、病気療養等に応じた助言や指導を学校と連携していただけますようお願い致します。

② 生活の様子

生活の様子も他者との比較によるものではありません。この項には、10項目の観点があり、どの観点も社会で働く力に直結する重要な項目です。「○」は概ね達成しているという評価です。

通信票では、学習の記録を重要視すると思ひます。しかし、この項目は「人間性」に関わる重

要な事項です。人間的な良さを伸ばし、改善点があれば、具体的にどんな場面で、どのようにすれば良いかを的確に助言しながら成長させたいと思います。保護者の皆様には社会人の先輩としての視点からも、改善の必要性や助言をお願い致します。

③ 特別活動の様子

特別活動は、様々な構成員の集団活動を通して成果を伸ばし課題の改善を行いながら、主体的な学校生活を目指します。その活動の範囲は学年、学校段階が上がるにつれて広がりを持ち、そこで育まれた資質・能力は、中学卒業後の様々な集団や人間関係の中で生かされます。

このような特別活動の特質を踏まえ、学習指導要領の重要な視点として、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つが示されています。

各活動の記録では、委員会や部活動等の名称が記録されています。しかし、一番重要なのは、その活動を通して上記の3点の力をどのように育んできたかという成果や課題について確認して今後に生かすことです。是非、三者懇談の中で話題にして下さい。

④ 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育てること等をねらいとしています。思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代において、ますます重要な役割を果たす学習です。

本校では基本的に「SDGsに関する郷土学習」や「平和」をテーマに学習をしています。各学年ごとに自ら課題やテーマを設定し、情報を収集し、その情報を分類・整理して、自分の考えを形成しながら課題を追求する学習を展開しています。

お子さんが、どんなテーマを追求しながら学習しているかを知り、一緒にふるさとの道志村の維持・発展や平和について考え、助言や指導をお願いいたします。

⑤ 特別の教科 道徳 ※今学期は記述していません。3学期に評価します。

道徳は、平成27年度から「特別の教科 道徳」として教科化されました。道徳は、教育基本法や学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共により良く生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目標としています。

また、その目標をかなえるために道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え議論を通して「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度」を育成します。

評価においては、数字を用いた評価・他者と比較した評価・特定の内容項目についてのみ評価する等は適切ではないとされています。ご理解下さい。

⑥ 各教科の学習の記録

「評価」は、一人一人の生徒に学習指導要領の内容と指導事項を確実に定着させるために、「何に対して」、「どのような学習状況にあるか」を把握し、それを改善・克服するために行うものです。

評価の対象は、他者との比較ではなく、学習指導要領の「各教科で育成すべき力」です。この目標となる観点は、各教科ともに①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度の3観点で構成されています。

それぞれの「評価」は、A・B・Cのように観点で区別して評価します。Aは、「十分満足できる」状況と判断され、Bは「概ね満足できる」状況と判断されます。Cは、「努力を要する」状況です。

この各観点のA・B・Cの評価の達成度を「形成的評価」と言い、主に学習指導の改善に活用します。学期や1年間の学習を総合的に要約して評価したものを「総括的评价」と言い5・4・3・2・1で表記します。多くの人が要約された5・4・3・2・1の評価にとらわれがちです。

しかし、評価は「何に対して」、「どのような状況」にあるのかを的確につかみ、成果や課題を見いだし、それを今後の学習に生かすことが重要です。

例えば、学力に一番重要だと言われる観点は、「主体的に学習に取り組む態度」の観点です。この観点に課題がある場合は、学習に見通しをもつことや目標と現状とのズレを修正することなどの「自己調整力」や「粘り強さ」等に原因があると考えられます。

つまり、「観点別評価」の各項目や、「A・B・C」の評価の達成度に注目しながら、次の学習に生かすことが通信票を活用することになります。

成果が上がらなかったことや失敗したと思えることも、「成果」だと捉えて頂きたいと思います。その体験を改善するために、「自己調整力」や「粘り強く」何度も挑戦することは「主体的に学習する態度の育成」の評価の向上に繋がります。

⑦ 家庭からの通信

保護者の皆様の中には、文字のきれいさや、文章のうまさ等を気にする方がいらっしゃるかもしれませんが、「我が子への思い」をひとことご記入下さい。その「思い」が、子供には必要です。自分の子供として生まれてきてくれたお子さんに、成長を願う言葉をお願いします。最後に、保護者「捺印」もお願い致します。

保護者の皆様へ（文部科学省資料より）

子供たちの「生きる力」を育むには、学校での学びを日常生活で活用したり、ご家庭での経験を学校生活で生かしたりすることがとても大切です。

お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で話題にしてみてください。保護者の皆様の働きかけが、子供たちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。

保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。以下は参考項目です。

- 学校や友だちのこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- 携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等をする時間を限定している。
- 子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

※ SNSやゲームを毎日3時間以上使用している生徒が多数います。ご家庭での対応もお願いします。

（全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）

学校教育目標重点 「居心地良く、やる気のある学級・学校」

2学期を振り返る「生徒総会」を行いました

本日、3・4校時に全校で2学期の成果と課題を明らかにするための「生徒総会」を行いました。

生徒会長の加藤景己さんを中心とする生徒会執行部主催の最後の活動となる「生徒総会」でし

た。生徒会目標や生活・学習・委員会・部活動等の特別活動等を生徒自身が振り返り、成功の原

因を明らかにしたり、課題を明確にすることによって今後のより良い生活を創造するための話し合
いでした。生徒会執行部や上級生の配慮の中で、1年生がとても主体的に意見を発表しました。

これは、現在の生徒会執行部が求めていた異学年交流の中で、「安心して意見を言い、活動
することができる」ことを証明する活動でした。1年間の上級生の努力が、1年生の活動に反映して
いました。もちろん、1年生だけでなく3年生や2年生、生徒会執行部の役員・議長等が自分の学
年や個人の責任をしっかりと果たせていたことも大切なことです。

千葉教頭先生も、今までの全校の話し合いの中で一番良かったと講評していました。生徒会
執行部を中心に、最後の活動をしっかりと成果を残して終了することが出来ました。

生徒会長 加藤景己さん



議長を務めた 脩大さん



執行部 千莉さん・輝さん



記録を務めた桜之朗さん・佳太さん 最初の発言 3年雅也さん



1年生が主体的にどんどん発言する様子

安心できる環境の中で成長する1年生



生徒会役員以外の3年生も2年生も主体的に参加

オンライン参加

講評 千葉教頭先生



